NGO外務省定期協議会
援助効果に関する意見交換会

アキラ行動計画（AAA）の実施

平成22年7月2日
外務省国際協力局

AAA概要

2008年9月に開催されたアクラ・ハイレベル・フォーラムにおいて、パリ宣言に基づく取組を中間評価し、今後の援助効果向上を加速させる決意を示したアクラ行動計画（AAA: Accra Agenda for Action）を成果文書として採択した。パリ宣言を補完するもの。

- ▶ オーナーシップ（para13等）
- ▶ 予測性向上（para26）
- ▶ カントリーシステムの活用（para15）
- ▶ アンタイドの拡大（para18）
- ▶ 分業の推進（para17）
- ▶ コンディショナリティーの撤廃（para25）
- ▶ 南南協力・新たな開発の主体者（para19, 20等）

オーナーシップ

- ▶ 途上国：議会，地方自治体，CSOとの調整
- ▶ ドナー：全ての開発主体者の能力向上の支援
- 共同：国際的なコミットメント（ジェンダー，人権，障害者，環境）に合致した政策・プログラム

日本の対応

- ◆ 途上国が自ら開発計画を策定，実施する体制を支援。
- ◆ C D D E を通じ，途上国の議会関係者の関与を支援。
- ◆ 国際的コミットメントの実施を支援。

分業 (Division of Labour)

- ▶ 途上国：ドナーの役割を決定する
- ▶ 途上国・ドナー：原則策定（～09年12月）、国際的な分業の対話開始（～09年6月）

日本の対応

- ◆ 原則策定及び国際分業の対話に参加する。
- ◆ 各途上国への支援計画策定にあたり，集中と選択を行う。その際には，十分に途上国及び他ドナーとの調整を行い，途上国政策へのアライメントを確保する。
- ◆ 途上国主導のドナー分業の取組を支援する。

アンタイド化

- ▶ ドナー：更なるアンタイド化の計画策定、調達手続の透明化、現地・地域企業の参加促進
- ▶ 途上国・ドナー：国際的なCSR（企業の社会的貢献）の合意を尊重する。

日本の対応

- ◆ DACアンタイド勧告に沿って実施。無償及び円借款（STEP除く）は全途上国を対象。
- ◆ 報告の方法を改善
- ◆ 現地・地域調達の拡大
- ◆ アンタイドの成果及び質の確保に関する分析を行う。

カンントリーシステム（CS）の使用

- ▶ 途上国・ドナー：カンントリーシステム（CS）の合同評価
- ▶ 途上国：CS改善の計画策定
- ▶ ドナー：1) CSを第一オプションとし、使用しない場合は理由を明確にし、定期的に見直す, 2) CS使用の計画を策定する
3) 政府間援助の50%以上でCSを使用する

日本の対応

- ◆ PBAを促進する。また、支援終了後の事業継続のため、途上国の事業実施の仕組みを通じた支援を行う。
- ◆ 既に60%以上の援助でCSを使用している
- ◆ 現地調達割合を向上させる
- ◆ カントリーシステムの強化を図る

予測性向上 (Predictability)

- ▶ 途上国：予算制度の改善
- ▶ ドナー：3～5年の援助計画（資金含）の提供
- ▶ 全ての開発主体者（新興ドナー，CSOを含む）：予測性の更なる改善（含む評価ツールの開発）

日本の対応

- ◆ 円借款，無償資金協力支援，主な技協プロジェクトは，開始時に支援内容を途上国と協議して決定。
- ◆ 09年から事業展開計画を公開し，3～5年の支援計画を途上国と共有し，公開している。
- ◆ 途上国の求めに応じ，援助予定額，各案件の実績などを提供。

南南協力・新たな開発の主体者

- ▶ 全ての開発主体（新興ドナー、CSOを含む）：パリ宣言の原則を適応することを慫慂
- ▶ 途上国・ドナー：更なる三角協力を慫慂

日本の対応

- ◆ 三角協力への更なる貢献
- ◆ 会合への新興ドナー等の関与を奨励する。
- ◆ 新興ドナー等の幅広い関係者を取り込んだ体制が重要であり、DAC等で柔軟性のある緩やかな枠組を構築することを働きかける。